

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02671

研究課題名（和文）小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical study on the process of cultural structures based on school districts

研究代表者

多和田 真理子（Tawada, Mariko）

國學院大學・文学部・准教授

研究者番号：00646268

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、長野県飯田市内の小学校・中学校が所蔵する歴史資料の分析を通して、小学校区を核とする近代地域社会の文化構築に着目した。また、中学校区にも視野を広げ、新制中学校の設置による地域文化構造の変容を分析した。学校と地域の関わりを検討するにあたり、山間部の事例として旧木沢小学校所蔵史料の調査に取り組み、資料目録の作成を完了した。また、地方都市部の事例として、飯田市立追手町小学校および同飯田東中学校所蔵史料の調査を進めた。さらに、収集した史料データをもとに、主に1900～10年代と1950～70年代に焦点をあてて学校と地域の関係の実態を明らかにするとともに、その関係の変容過程について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は以下の点にある。第一に、学校で作成・保管される文書の悉皆的調査・研究により、学校文書の性質を把握し、研究材料としての活用可能性を示した。保存年限終了による廃棄や、学校統廃合による散逸も危惧される中、学校文書の歴史的価値を示した意義は大きい。第二に、近代地域社会の文化構造を、小学校区を単位として形成される側面に着目して明らかにすることにより、学区と地域社会の関わり固有性を具体的に描き出した。そして第三に、中学校区にも視野を広げること、戦後における地域文化構造の変容も含め歴史的に考察した。これらは教育史だけでなく地域史を総合的に捉える点においても意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This research focused on the cultural structures of modern regional societies with school districts at their core, through analyzing historical records stored by elementary and junior high schools in Iida City, Nagano Prefecture. It also analyzed the changes in regional cultural structures resulting from the establishment of the new junior high school system. As a case study of mountainous areas, we conducted a survey of historical documents held by the former Kizawa Elementary School and created a catalog of them. As a case study of local urban areas, we conducted a survey of historical documents held by Otemachi Elementary School and Iida Higashi Junior High School in Iida City. Based on the results of these surveys and focusing primarily on the 1900s to 1910s and the 1950s to the 1970s, we revealed the actual relationships between schools and communities and examined the processes of transformation in these relationships.

研究分野：日本教育史

キーワード：学校所蔵史料 小学校区 中学校区 地域社会 文化構築 社会構造 教育史 地域史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近代の小学校は、1872(明治5)年の「学制」以来、旧来の文化・教養による共同意識を断ち切ったうえで、新たな「文化と教育の共同体」の中核として位置づけられた教育機関であった(佐藤学「交響する学びの公共圏 身体記憶から近代の脱構築へ」栗原ほか編『内破する知』東京大学出版会、2000年)。だがその設置・維持の実際は各地域に委ねられ、旧来の村落共同体と複雑に絡み合っただけで展開した。

教育史研究においては、「学区の公共性」をめぐる議論の中で、学校ないし教育のあり方への、地域共同体の関与が指摘されてきた(「学区の公共性」教育史学会編『教育史研究の最前線』日本図書センター、2007年、第2章第1節)。また木村元らは、「生活世界から距離を持つ固有な時空間」である学校を、地域社会の人々が人間形成の場として受容し「拘束されながらそれを利用していく」過程を、教育実践の様相から明らかにした(木村元編著『日本の学校受容 教育制度の社会史』勁草書房、2012年)。さらに、久富善之と木村らの研究では、小学校のあゆみと地域社会のあゆみとを「不可分に重なり合ったもの」として捉え、小学校所蔵文書を用いて地域の変化を通時的に描き出している(JSPS 科研費 JP18330178「日本の学校風土・慣習の形成・展開と現代的再編課題 その社会史・社会学的研究」)。

いっぽう地域史研究の分野では、小学校を「磁極」として形成される社会=文化構造に着目する視点が、吉田伸之によって提示されている(吉田伸之『『単位地域』について』『飯田市歴史研究所年報』4号、2006年)。「学区共同体」を、地域社会の単なる一要素としてのみならず、市民の地域アイデンティティの核心を形成する決定的なものと捉える吉田の指摘は重要である。

小学校を社会=文化の中核として捉え、そのあゆみを示す史料群となる小学校所蔵文書の悉皆調査を基盤とした地域史研究を試みたのが、本科研の研究代表者も参加した田嶋一らの研究である(JSPS 科研費 JP22330219「飯田下伊那における学校史料と地域社会に関する基盤的研究」)。その認識と成果を引き継ぎ、さらに学校所蔵文書の地域史資料としての性格を明らかにするため、行政文書など地域関連史料に視野を広げた。(JSPS 科研費 JP26381059「小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究」)。

上記研究の課題意識および成果をふまえ、本研究においては、小学校所蔵文書の悉皆調査にもとづく具体的な史料分析を深め、小学校区および中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程を歴史的に明らかにしようとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学区を単位とする地域の社会=文化構造のありようを歴史的に解明することである。小学校区を核とする近代地域社会の文化構造がいかにして構築され、変容したかという過程に着目するとともに、中学校区にも視野を広げ、戦後の新制中学校設置による地域文化構造の変容についても通時的な分析を行うことを目指した。

調査の主たる素材として、長野県飯田市の中心市街地に設立された追手町小学校および飯田東中学校が所蔵する史料を想定した。この2校の所蔵文書を、学校教員や地域社会を構成する人々などに焦点をあてて分析し、学校と地域とがどのような関わりを結んできたか、その様相を明らかにしたいと考えた。また、同市の近郊農村部や山間部の小学校区を分析対象に加え、同様に学校所蔵資料を分析することにより比較検討を行うこととした。

3. 研究の方法

本研究では、小学校所蔵文書の悉皆調査の成果を活用し、研究対象とする文書の読解・分析により地域社会の文化構築の様相を歴史的に把握することを目指した。個々の史料分析に関しては、公開研究会など発信の場を設定し成果を共有するとともに、地域社会における文化の伝統および現在との関連について考察を深めることを目指した。それにより、地域の全体史叙述を視野に入れた研究成果の論文執筆などを行った。

対象地域の特徴をふまえ、以下の3つに区分し研究を進めることとした。

(1) 市街地...旧飯田小学校区。追手町小学校所蔵文書、飯田東中学校所蔵文書などを用いた分析を行う。

(2) 郊外農村部...座光寺小学校区を対象に、座光寺小学校所蔵文書、旧座光寺村役場文書などを用いた分析を行う。

(3) 中山間村部...竜東・遠山地区を想定し、史料所在状況を探索する過程で、旧木沢小学校関係文書の存在を把握し、現状記録調査を実施するとともに、内容の分析に着手した。

また、それぞれの地域において、以下の5つに焦点をあてた史料分析を行うこととした。

学校日誌の読解と分析...学校日誌を基本史料として位置づけ、翻刻および分析を継続的に実施する。

学校教員に関する分析...学校教員の経歴や養成過程、女子教員の増加や教員と地域との関わりの様相などを、主に明治～大正期を中心に分析する。

運動会などの学校行事...学校行事や儀式への協力・動員を通して、地域と学校との関わりが深まっていく過程を、小学校と中等学校との比較などを含めて考察する。

学校経営と地域の状況...これまでの研究で明らかにしてきた、小学校の学校経営と地域の協力の様子との比較検討材料として、中学校の設立初期における学校経営やカリキュラム編成のあり方について明らかにする。

地域有力者層と学校...地域社会の文化構造の様相を規定する要因のひとつとして有力者層の動向が挙げられる。前近代における文化的ネットワークの中核として、また近代学校の設立維持や町村行政・地域教育政策の担い手として重要な役割を果たしてきた人々の動きを明らかにする。

4. 研究成果

以下、年度ごとに研究活動の成果を述べる。なお、文中で挙げた成果物は全体の一部であり、研究活動の推移を具体的に説明するために例示したものである。

(1) 2017 年度

旧飯田小学校区の学校所蔵史料を中心に、従前の研究活動において継続的に実施してきた、地域の学校所蔵資料調査の成果を活用し、上記 ~ に焦点を当てた史料読解を各自で進めた。

さらに、新たな調査対象として、山間地域にあたる飯田市南信濃木沢の旧木沢小学校所蔵資料の所在を確認した。主に 1960 年代以降、2000 年の閉校に至るまでの、学校運営関係文書が豊富に残されていることを把握し、史料調査会を開き目録作成に着手した。地域の産業や人口動態の変化にともない、地域文化のありようも変化し、学校もその影響を大きく受けることになった。史料の分析を進めることで、そうした様子を具体的に描出できるとの見通しを立てた。

(2) 2018 年度

山間地域における学校と地域との関係を明らかにする史料群として、前年度に引き続き、旧木沢小学校所蔵資料の調査を本格的に開始した。2 回の大規模調査をはじめ、聞き取りや関係文書の探索を行った。これまでほとんど注目されてこなかった本史料群の価値に注目し、目録作成を集中的に行うこととした。

文書調査の過程に関する情報を公開するとともに、史料の特徴を明らかにし、調査成果の一部を還元するため、2018 年 8 月に飯田市で開催された地域史研究集会(主催:飯田市歴史研究所)において研究発表を行った。1970 年代の『学校要覧』を主たる分析対象とし、地域の産業が変化する中で学校側が木沢地区の子どもたちをどのように捉え、どのような教育に力を入れるべきと考えていたかを明らかにしたものである(多和田真理子「文化的の中核としての木沢小学校」)。また、現在も地域の人たちの尽力により旧校舎が残され、活用しているという状況そのものが、本研究の関心である学校と地域との関係性の強さ、地域における文化的支柱としての学校というイメージを具体化していると認識し、校舎保存運動の中心的役割を果たしている地域団体の方との対談形式で報告を行った(松下規代志・田嶋一「木沢の歴史文化を未来につなぐ」)。

(3) 2019 年度

引き続き、旧木沢小学校所蔵資料の調査を 3 回にわたって実施し、目録作成作業を行うとともに、聞き取りや関係文書の探索を行った。1970 年代以降の『学校要覧』に焦点をあてての分析を進め、前年度の口頭発表をもとにした原稿執筆を行った。

また、木沢小学校をはじめ飯田下伊那地域の複数の学校に勤務した元教師からの聞き取りに着手したほか、同じく飯田下伊那地域で長年にわたり教師を勤めた故人の収集資料について情報を得、概要を確認した。これらの調査については、コロナ禍が大きく影響し、継続的に取り組むことができなかった。

ほか、学校所蔵資料をもとにトイレの設置や使用状況を分析し、地域の衛生意識の形成について明らかにする研究(西島央「学校トイレの教育社会史 “衛生意識” 形成のヒドゥンカリキュラム」)、青年たちが学びの場として作り上げた自由大学に関する考察(田嶋一「近代日本の青年の自立と教育文化(1) 1920 年代における青年たちの自立への希求と自由大学運動」)、同「近代日本の青年の自立と教育文化(2) 啓明会の教育運動と農村自由大学」)など、分担研究者・連携研究者各自の研究活動において、これまでに調査した学校所蔵資料や地域関連資料を用いての成果を出すことができた。

ここまで取り組んできた学校所蔵資料調査の成果と課題について、論文を執筆した共著が刊行された(多和田真理子「学校所蔵資料調査の成果と課題」地方史研究協議会編『学校資料の未来』岩田書院、2019 年)。学校所蔵資料を地域資料として保存活用する試みについて、継続的に議論を進めてきたが、執筆準備にあたり、あらためてメンバー間で議論を行った。

(4) 2020 年度

コロナ禍のもとで移動が制限されたことが大きく影響し、旧木沢小学校所蔵資料調査を中断せざるをえなくなった。これまでに収集した撮影資料データの読解については各自で作業を進めたが、研究の進捗は著しく停滞し、やむなく研究を 1 年延期することとした。

(5) 2021~22 年度

引き続き、コロナ禍の移動制限により史料調査が計画通りに実施できなかったが、旧木沢小学

校所蔵資料調査を実施し、目録作成にかかる現地作業をほぼ終了することができた。並行して、1960～70年代の修学旅行や遠足に着目した分析を行った。地域社会の変容にともなって教師や保護者たちにおける地域観および子ども観がいかなる変容を遂げたかを史料より明らかにし、南信濃の歴史を全体的に捉えようとする共著の1章を担当した(飯田市歴史研究所編『山里南信濃のあゆみとくらし』)。

また、学校の運営や教育活動の一端を知る重要な史料として校会記録(職員会記録)に着目し、共同で読み合わせを行う研究会を継続的に実施した。具体的には1915(大正4)年度の飯田尋常高等小学校校会記録(追手町小学校所蔵)を対象に、翻刻と読解、関連資料を含めた考察を行った。その成果として、大正天皇即位奉祝記念事業における学校と地域の関わりに焦点をあてた論文を執筆した(多和田真理子「大正天皇即位奉祝事業における学校と地域」、同「大正天皇即位記念事業における学校と地域」)。当該年度の校会記録については全文を翻刻し冊子を作成した(『校会記録を読む 下伊那郡飯田尋常高等小学校1915(大正4)年度校会記録の翻刻と分析』)。

ここまで継続的に実施してきた学校所蔵資料調査に関して、史料を活用して研究活動を行う立場としての取り組みと課題意識について、シンポジウムで報告を行った(多和田真理子「学校資料の調査・保存・活用について 研究者としての関わりを考える」)。

(6) 本研究の意義と今後の展望

本研究で得た成果と今後の展望として、以下の3点を挙げる。

第1に、学校所蔵資料の地域資料としての価値を見いだした点である。本研究においては、旧木沢小学校の学校要覧を手がかりに、戦後の学校と地域との関わりについて描出した。学校要覧は当時の学校運営の概略について示した文書であり、先行研究においては主に教育課程の分析などに用いられてきた。だが他にも多くの情報が記されており、本研究では、学校の運営方針を定めるにあたって、学校側からみた地域像や子ども像が描き出されている点に着目した。また、研究を進める中で追手町小学校所蔵資料のうち校会記録に着目したが、校会(職員会)で教職員に共有される学校運営に関する情報が、いかなる過程において決定したのかについては、実は明らかではない。これまで学校所蔵資料については、主に個々の研究テーマにそって参考資料として用いられてきたが、史料としての性質に着目し、詳細な分析を通じて、学校と地域との関わりや、地域における社会=文化構造のありようをみていくという視点が有効であるとの展望を得た。本研究ではじゅうぶんな史料分析にいたらなかったため、継続して課題としていきたい。

第2に、こうして地域資料として独自の価値を見いだした学校所蔵資料について、複数の学校・学区における比較検討を本格的に行うことで、地域の独自性と共通性を見いださう。これは、本研究が当初の計画として目指したことであったが、実際には思うように進展できなかった。これは、研究途中で把握した史料群が想定以上に大きく、調査に時間がかかったためであるが、複数の史料群の比較検討について、明確な方針を定めにくかった点にも原因があった。今後は主要な検討史料を限定し、比較検討に重点を置いた分析を行いたい。

第3に、学校所蔵資料の保存・活用についてである。近年になって、学校所蔵資料の価値に着目し、積極的に保存・活用に取り組もうという認識が多くの人々に共有されてきたと感じている。本研究においても、調査研究活動を行う中でその資料的価値の重要性や保存・活用の必要性について発信してきたところである。今後も継続して研究に取り組み、広く学界や市民に対して発信をしていくことで、教育史・地域史の進展に寄与したいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 57
2. 論文標題 大正天皇即位記念事業における地域と学校 長野県下伊那郡飯田尋常高等小学校「教育展覧会」の事例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 國學院大學教育学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 56号
2. 論文標題 大正天皇即位奉祝事業における地域と学校 長野県下伊那郡飯田小学校の事例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 國學院大學教育学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 17
2. 論文標題 文化的中核としての木沢小学校	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下 規代志・田嶋 一	4. 巻 17
2. 論文標題 木沢の歴史文化を未来につなぐ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田嶋 一・齋藤 智哉	4. 巻 61
2. 論文標題 「青年の自立と教育文化」研究の視座	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 野間教育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 22-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田嶋 一	4. 巻 61
2. 論文標題 近代日本の青年の自立と教育文化(1) - 1920年代における青年たちの自立への希求と自由大学運動 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 野間教育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 59-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田嶋 一	4. 巻 61
2. 論文標題 近代日本の青年の自立と教育文化(2) - 啓明会の教育運動と農村自由大学 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 野間教育研究所	6. 最初と最後の頁 110-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 52
2. 論文標題 高等学校地理歴史科と地域研究 古島敏雄における社会科の構想を手がかりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 國學院大學教育学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 63-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬川 大	4. 巻 1
2. 論文標題 大正・昭和戦前期における中等諸学校の校友会雑誌に見る『ユーモア』の学習 作文教育から校風の継承まで、顕在的および潜在的カリキュラムの歴史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学総合研究	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田嶋 一	4. 巻 52
2. 論文標題 教育の社会史の視座と方法 『<少年>と<青年>の近代日本』をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 國學院大學教育学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 3-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 15
2. 論文標題 書評会 (田嶋一著『<少年>と<青年>の近代日本』を読む)で考えたこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多和田 真理子	4. 巻 15号
2. 論文標題 田嶋一『<少年>と<青年>の近代日本』を読んで	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 飯田市歴史研究所年報	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 多和田 真理子
2. 発表標題 学校資料の調査・保存・活用について 研究者としての関わりを考える
3. 学会等名 日本教育学会中部地区・中部教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 多和田 真理子
2. 発表標題 文化的中核としての木沢小学校
3. 学会等名 第16回飯田市地域史研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下 規代志・田嶋 一
2. 発表標題 木沢の歴史文化を未来につなぐ
3. 学会等名 第16回飯田市地域史研究集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 飯田市歴史研究所編 著者：太田仙一、近藤大知、竹村雄次、田中雅孝、多和田真理子、羽田真也、原英章、福村任生、前澤健、本島和人、吉田ゆり子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 飯田市歴史研究所	5. 総ページ数 83
3. 書名 史料で読む飯田・下伊那の歴史3 山里 南信濃のあゆみとくらし	

1. 著者名 編：港区教育委員会事務局教育推進部教育長室 執筆：小林正泰、池田雅則、吉田昌弘、山口真里、加島大輔、辻直人、瀬川大	4. 発行年 2023年
2. 出版社 港区教育委員会	5. 総ページ数 83
3. 書名 港区教育史 第11巻 くらしと教育編	

1. 著者名 地方史研究協議会編 著者：工藤航平、島田典人、風間洋、多和田真理子、羽毛田智幸、実松幸男、和崎幸太郎、小山元孝、大平聡、深田富佐夫、神田基成	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 206
3. 書名 学校資料の未来	

1. 著者名 西島央	4. 発行年 2019年
2. 出版社 科学研究費挑戦的萌芽研究「学校トイレの教育社会史 - "衛生意識"形成のヒドゥンカリキュラム -」 (15K13209)	5. 総ページ数 54
3. 書名 学校トイレの教育社会史 - "衛生意識"形成のヒドゥンカリキュラム - アフリカ3か国のフィールドワーク報告書	

1. 著者名 監修：日本教育社会学会 著者：中村高康、広田照幸、苅谷剛彦、矢野真和、酒井朗、中澤渉、北澤毅、久富善之、今田絵里香、倉石一郎、仁平典宏、岡本智周、木村元、筒井美紀、本田由紀	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 教育社会学のフロンティア 1 学問としての展開と課題	

1. 著者名 南信州地域資料センター 著者：吉澤健、嶋不濁、鎌倉貞男、瀧本明子、竹村雄次、清水迪夫、岡田正彦、元島知寿、山内尚巳、原田望、瀬川大	4. 発行年 2018年
2. 出版社 南信州新聞社出版局	5. 総ページ数 210
3. 書名 『伊那青年』とその時代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

JSPS科研費JP17H02671成果報告書『校会記録を読む 下伊那郡飯田尋常高等小学校 1915（大正4）年度校会記録の翻刻と分析』を作成
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西島 央 (Nishijima Hiroshi) (00311639)	青山学院大学・コミュニティ人間科学部・教授 (32601)	
研究分担者	瀬川 大 (Segawa Dai) (20637334)	日本女子体育大学・体育学部・教授 (32671)	
研究分担者	木村 元 (Kimura Hajime) (60225050)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任教授 (12613)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大西 公恵 (Onishi Kimie) (70708601)	和光大学・現代人間学部・准教授 (32688)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連 携 研 究 者	田嶋 一 (TAJIMA Hajime) (90146738)	國學院大學・文学部・名誉教授 (32614)	
連 携 研 究 者	多和田 雅保 (TAWADA MASAYASU) (10528392)	横浜国立大学・教育学部・教授 (12701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関